



収穫機で加工用キャベツ収穫

7月24日(月)、(株)響のは場で、専用収穫機による加工用キャベツの収穫作業が行われました。

昨年度から作付されている加工用キャベツは、本年は、作付面積を約4haに拡大し、5件の農業生産法人で取り組み、収穫機を導入するなど本格的に力を入れています。作付した品種は「おきな」と「H691」で10月19日前後まで収穫が行われる予定です。

くみあいたより

JAなんぽろ



JA なんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南 幌 町 農 業 協 同 組 合

麦刈り開始

7月20日（木）より、町内の秋まき小麦の収穫が始まりました。

（有）ほなみでは、7月24日（月）より収穫開始、池岡真吾さんが大型コンバインに乗り、刈り取り作業を行い小麦はみるみるうちに収穫されました。

また、同日より、ライスターミナルの小麦受け入れも開始しました。本年はほ場での乾燥も進み順調に刈り取り作業が行われ、おおむね良好だと思われま。



▲ 秋まき小麦の収穫を行う池岡真吾さん（有）ほなみ



▲ 秋まき小麦を搬入している様子



青年部だより

発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 石川 卓也

青空教室開催

7月7日（金）、イベント班の事業である毎年恒例の「青空教室」を開催し、盟友10名が参加しました。

本年の研修は北空知方面で、午前は滝川市のJAたきかわ菜種・蕎麦乾燥調製施設と菜の花館を視察し、菜種の荷受、乾燥施設等の設備と搾油工程の見学を行いました。

午後からは、深川市のJAきたそらち広域小麦・大豆乾燥調製貯蔵施設と深川マイナリー、多目的低温倉庫を視察し、小麦・大豆の調製方法等の説明を受けました。今回は、南幌町にはない施設の視察や話が聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。



▲ 施設見学をする盟友達



▲ 広域小麦・大豆乾燥調製貯蔵施設前での集合写真

グリーン・ツーリズムで 岩農生を受け入れ

7月26日（水）、27日（木）の1泊2日で、岩見沢農業高等学校の生徒2名を当JAなんぼろ青年部盟友宅に受け入れました。

北海道空知総合振興局では、岩見沢農業高等学校の生徒を対象にグリーン・ツーリズムを行い、地域農業者のもとで1泊2日の農業体験で農業について知識の向上を図るとともに、農業者と交流を深めるため行っており、今回は当JAなんぼろ青年部の城地真吾氏（晩翠）宅で受け入れをしました。

農業体験では、とうきびの選定やほ場の除草等を行いました。農作業を行った高校生たちは、「貴重な体験ができ、楽しかった。」と話していました。



J Aなんぼろ青年部道外視察研修報告

J Aなんぼろ青年部

部長 白 倉 翔 平

日頃より当青年部活動に対しまして、ご理解とご協力いただきまして改めて感謝申し上げます。今年度、初の試みとして東京研修に参加させて頂き、大変有意義な時間となりましたのでご報告させていただきます。

ことの始まりはJAなんぼろ清水組合長より、「東京に向き国会等を見て勉強してきてみてはどうだろうか。」とお言葉を頂いたのがきっかけでした。過去を振り返ってみますと道議会の傍聴、道議会議員との懇談等がありました。ここ数年は遠ざかっていたのが現状でした。早速盟友の皆に話をしたところ、またない機会なので青年部としては是非行きたいとの意見があり農協の協力のもと実現することができました。

研修日程としては、6月12日(月)、13(日)の1泊2日という、限られた時間の中で沢山の方との時間を設けて頂きました。初日には農林水産省の若手職員の方を中心とした意見交換を行いました。僕らと同世代ということもあり、ざっくばらんな話ができ、僕らの疑問や不安また、不満の点をあげ、職員方からは北海道の現状がどうなのか、どういった作付体制なのか等の色々な話題で盛り上がりその日は終えました。2日目は、先日の職員の上司の方も交えての意見交換をさせて頂きました。2日目という

こともあり、より具体的な話のやり取りとなりました。①30年産以降の米の直接支払交付金の概算決定額の714億円の行方と米価について。②畑作物の直接支払交付金の今後の展開。③府県での交付金目当てと思われる捨て作り問題とその対策。④大規模経営や先進的技術を取り入れ、日本の食を担う代表の北海道、政策の一本化の課題と疑問。⑤準備金制度、収入保険制度等。挙げればきりが無い位の話をさせて頂きました。



また、午後からは国会議員の渡辺孝一議員への表敬訪問をさせて頂いた。き、その中でも米の7,500円の話題がやはり稲作中心の南幌町にとってこの減収は計り知れない旨を伝え、何かと尽力したいとお言葉を頂きました。特に印象に残った言葉が「これからの農業は政策によって変わる農業者ではなく、自分たちが先頭に立って変える農業者となってもらいたい。」との熱い想いを聞かせて頂き、その為にも農業者の目線で今後も活動



していきますとの事でした。その後、国会施設の見学をさせて頂き、普段入ることのできない部屋等も見学し、とても貴重な体験ができた事を実感しております。

今回のこの研修について、この報告書では伝わらない部分も多々あると思いますが、行って良かった、また機会があるなら参加したいと思える研修でした。そして、まだまだ僕らの農業政策についての勉強不足を痛感したのと同時に、こうした活動が少しでも今後の農業情勢に反映してもらえたらと思いました。この研修を機に改めてこれからもしっかりと南幌町の農業を守っていかねければと感じました。

最後になりますが、この東京研修に際しまして清水組合長をはじめ、農業振興課の職員の方々は日程調整や手配など大変お世話になり、良い研修で終われた事に感謝申し上げます報告とさせて頂き。大変有難うございました。

ハッラツにプレー

7月14日(金)、南幌町中央公園でJAなんぼろ年金コスモスの会パークゴルフ大会を開催しました。当日は、暑いにもかかわらず、43名の参加があり、みなさんハッラツとプレーをしていました。

熱戦が繰り広げられる中、見事総合優勝に輝いたのは、山田国広さん(11区)、男性の部1位は、石栗寛さん(緑町)、女性の部1位は、石栗勝子さん(緑町)でした。また、ホールインワンを達成したのは、4名で、荻原弘幸さん(西町)、木戸勇さん(3区)、前川義三さん(14区)、竹川キセさん(稲穂)でした。



女性部短信

◆第2回フレッシュミズ交流会

7月14日(金)、第2回フレッシュミズ交流会が開催され、フレッシュミズ16名が参加しました。今回は南幌町主催の若手女性農業者サークル「グリーン未来塾」と合同で開催し、「グリーン未来塾」では、(有)ライフさんの圃場にてキャベツを収穫し大きなことに箱に詰める作業を体験し、農協の野菜関連施設、「野菜等集出荷センター」や「育苗センター」を見学しました。交流会は前年と同じく焼肉を行ない、収穫体験で収穫した採れたてキャベツも焼いて食べました。快晴の中行われた交流会はとても暑かったですが、楽しく過ごすことができ、部員同士の交流を深めることができました。



●若手女性農業者サークル「グリーン未来塾」とは？
農業後継者の営農を手助けする若手女性農業者を育成・サポートすることにより担い手農家の育成を図ることを目的とし、農村生活に関わる様々な研修や実習を行う中で女性農業者同志の親睦を深めつつ農業に関する実践的な知識を習得してもらい、地域で幅広く活躍することができるよう活動しています。

グリーン未来塾は年に4回活動しています！

実地研修や視察研修、体験研修など会員同士交流しながら農業に関することを学びます。

興味のある方は一度参加してみませんか？

質問・お問い合わせは役場産業振興課 山本まで

(☎011-378-2121)

次回は8月28日(月)に開催します！



JAGグループ通信

JAGグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JAG北海道大会決議事項の実践やその時々トピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧下さい。

JAG北海道中央会



日EU・EPA交渉が大枠合意に至る可能性が高まっていることから、6月14日「日EU・EPA交渉から北海道農業を守り抜く要請運動」を実施し、日EU等経済協定対策本部（自民党）の幹部役員、道内選出与野党国会議員及び農林水産省に要請を行いました。乳製品、豚肉、小麦粉調製品、馬鈴しょ、でん粉等が大きな焦点になると想定されますが、十分な情報提供がないまま大枠合意に向うことに大きな不安が広がっています。引き続き、政府・与野党に対して衆参農林水産委員会決議（H28・12）に基づき、農林水産物重要品目の再生産を可能とする国境措置の確保や交渉内容・進捗状況について丁寧な情報提供を求める運動を展開していきます。

JAG北海道信連

5月に、JAG窓口職員のスキルを向上し、JAG窓口をご利用いただく皆様のニーズに添えていく事を目的に「JAGバンク北海道窓口セールスコンクール」を開催しました。

当日は、各地区の予選等を突破した16名が「年金指定替部門」、「純新規推進部門」の2部門で接客や提案力を競いました。JAGバンク北海道では、コンクールを通じて、より一層のお客様の満足度向上を目指して参ります。



ホクレン



ホクレンは、酪農生産基盤強化対策の一環として、北海道特有の冬場の子牛事故率低減に向けた「冬期子牛飼養環境向上支援事業」を実施しております。



ですが、平成29年度から和牛繁殖農家の皆様に対する事業「冬期子牛飼養環境向上支援事業（和牛版）」を始めました。具体的には、出生直後の子牛を暖める機械装置や分娩監視モニター等の導入助成を行います。詳しい日程・事業内容については、JAG担当課へ問い合わせください。

JAG共済連北海道

社会貢献活動の一環として、昭和50年から継続して道内各自治体へ救急自動車を寄贈しています。

道庁総務部の危機対策課へ寄贈先の選定審議を依頼しており、今年度は4台を寄贈予定。今年度の寄贈が完了すると累積寄贈台数は記念すべき200台を超え、2022台を数えることとなります。

今後も行政やJAGと連携を図りながら交通事故防止と被害者救済への取組みを強化し皆様の為に貢献して参ります。



JAG北海道厚生連

北海道厚生連では、イメージキャラクター「コウセイくん」を制作しました。医療をイメージした白に北海道の緑を取り入れた、のんびり優しい性格のシロクマくんです。今後、様々な場面で登場しますので、癒されるキャラクターとして親しんでいただきたいと思います。



JAGMP（ジエイエイジャンプ）アプリで北海道厚生連を検索すると「コウセイくん」が登場しますので、皆さん是非会いに来てくださいね。

J A北海道大会実践フォーラム

～パネルディスカッション～

テーマ「道民と食と農でつながる」

サポーター550万人づくりに向けて

「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくりに向けて」と題したパネルディスカッションの内容をシリーズでご紹介する2回目をお送りします。



森川 純 氏

北海道新聞社 論説委員

私は6、7年前まで北見で3年間過ごしており、当時、加工品の充実度には驚きましたし、付加価値の重要性を学びました。

また、年中安定的に出荷できるということも一つの武器になりますが、消費者に旬を知って頂くことも一つの考え方だと思います。例えば春から夏にかけてはアスパラが獲れます。それと同時に道東やオホーツクの定置網にはトキシラスやサクラマスがかかります。そこでアスパラとサクラマスで何かできないかといったように、色々なところで旬のもの同士を組み合わせれば、何かまた新しいものができると思います。農協の色々な取組みを今後も期待しております。

宮入 隆 氏

北海学園大学 教授

漁業や漁協との連携で新しいものをつくるというご提案を頂きましたが、どういう形で地域の人たちと連携していくかという点は大きな課題になると思います。高橋常務、同じような産業の中での色々な連携により加工品を魅力的にしていく、そういった取組みも行っていますか。



高橋 優 氏

J Aきたみらい 常務理事
(事例発表者)



イベントになります。北見市常品には水産物があるというところで、漁協にもお声かけをしてお参加頂くといった取組みもしております。また、北見は塩焼きそばがB級グルメとして少し有名になりましたが、ホタテのエキスや地元の玉ねぎを使うことが条件となっており、こちらを通して連携による取り組みもあります。ただ、森川さんから言われたように、もう少し積極的に形に変えて、広げていかなければならないなと思いました。

宮入教授 実際、既に色々な形で取組みを行っている中で、今後さらに形にしたいものとしては具体的にどのような方向があるのでしょうか。

高橋常務 加工品は、5年前は全体的にアイテム数が少なく、売上も1000～2000万円程度でした。しかし商品開発や専門のセクションの設立により、毎年倍々で販売が伸びております。おかげさまで今年の目標は桁が一つ上がりまして、1億となりました。少しずつアイテム、売上も伸びており、現物だけではなく、形を変え、食べて頂き喜んでもらうといった取組みを、少しずつしていかなければなりません。

宮入教授 たくさん販売することも大事な一方、北海道は大産地であるが故に、外に売ってしまうという点があると思います。そこで逆に地元の人からの加工品に対する評価や、こういう特産品が出来て嬉しいといった声は実際にありますか。

高橋常務 たくさんそういった声も頂いております。加工品の玉葱醤油は、居酒屋さんなど飲食店の皆さんが地元へのこだわりからお店に置いて頂けるようになりました。また、居酒屋さんでは玉ねぎを丸ごと使った料理など色々工夫を凝らして提供して頂いており、非常にありがたいと思っています。

高橋 和則 氏

J A北海道中央会
総合企画部長

きたみらいは、子ども達を対象にした農業経験、体験の取組みが特徴的です。次世代



に向けて農業や農村、JA、協同組合を知ってもらう取組みであり、素晴らしいと思います。こういう取組みは、更にパワーアップして取り組んで頂きたいです。

また、先日、全国協同組合学会にて道青協のファームステイ事業が先進優良事例として表彰されました。評価の高い取組みとしてご紹介します。

宮入教授 高橋常務の事例発表で、今までの地域づくりを超えた、人づくりというキーワードもありましたが、この点はいかがでしょうか。



河野 真也 氏

タレント

あぐり王国というテレビ番組では、毎回小学生と一緒に農家さんのもとで、色んな体験をさせてもらいましたが、

中には農家さんをかっこいいと思って、農業高校に進んで農家さんになった子もいるんです。やはり、子どもの時の体験って大切だなと思います。たとえ農家さんにならなくても、その頃の体験ってずっと忘れないと思います。だから子どもの時に色々なことを体験させるというのは、すごく大事だと思います。

宮入教授 継続して関係性をつくれるか、そのきっかけがまず1回目の体験にあるということですね。

河野氏 それがまさにサポーターだと思います。

ファンになって、サポーターでもあるという姿ですね。

高橋 さやか 氏

食育フリーマガジン

mogmag 編集長



高橋常務の事例発表の中でも、地域の方と一緒に取組みの参加人数が一番多くて、やはり地域の方を巻き込んで何かをしていくことが大切なのだと思います。

例えば、子育てサロンの中に地域の農家の方が参加してその場で直売してみたり、農家のお母さんが来て、子ども達も交えながら料理教室をやってみたりという、地域との関わりがあると、子育て中のお母さんたちの不安もなくなったり、皆がつながったりいき、ファンになってサポーターになってという流れができていくのかなと思います。

宮入教授 子育てに苦労するお母さんたちにどういった支援ができるか、そのような点で地域を巻き込む先頭に農協さんがいても頼もしいかと思えます。

森川さんは、取材の経験などから北海道の農業について言えることがあれば教えて頂けますか。

森川氏 北見にいた時、カレーライスマラソンというイベントがありました。マラソンの途中で具材を買って、それを公園に持って行き、カレーをつくっ

て食べるという行事です。こういうものを通して農業が、特に子供たちにとって、身近になると思います。また、今の野菜は多くがF1ですが、子どもに命の育まれ方を伝えるという点でも在来種には魅力が一杯詰まっていると思います。私も農家の方と一緒に札幌黄の苗を作っていますが、玉葱を植えると白いぼんぼりの花が咲き、何千もの種が実る、そんな姿を見ると魅力が増すのでは、と思います。



理事会報告

7月18日

7月理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【監査講評】

- 1、第1四半期末自治監査
- 2、固定資産監査

【議案】

- 1、固定資産の取得について
- 2、出資金の減口について
- 3、規程類の改廃について

【報告事項】

- 1、農産物の生育状況について
- 2、営農振興組合長会議の開催結果について
- 3、米麦生産出荷懇談会の開催結果について
- 4、オール空知地区中古農機・自動車展示即売会の結果について
- 5、農業用廃農ポリ・廃農ビニールの回収結果について
- 6、米および水田農業政策の確立に関する政策提案について
- 7、持続可能な北海道農業の確立に向けた政策提案について
- 8、畑作・青果対策の確立に向けた平成30年度農業予算概算要求に関する政策提案について
- 9、平成29年度「米・麦・大豆出荷契約」の報告について
- 10、平成29年度 米出荷契約金の支出について
- 11、平成28年度 米経営対策費の返還について
- 12、平成27年度 米共同計算精算並びに情報開示について
- 13、平成29年度 特定低品位米取扱要領について
- 14、平成29年度 小豆取扱要領について
- 15、6月末 農産物保管状況について

- 16、6月末 蔬菜販売状況について
- 17、水稲・小麦乾燥調製委託契約（ほなみ、南幌大地利用組合）について
- 18、平成29年度 農業共済無事戻金の受入れ等について
- 19、6月期 J A ローンの貸付について
- 20、大口貸付先の平成28年度経営状況について
- 21、共済一斉推進の結果について
- 22、人事について
- 23、経営定期点検の結果報告について
- 24、内部審査の結果報告について
- 25、平成28年度 J A グループ北海道の事業報告概要について
- 26、第41回 J A 夜まつりの開催とタイムテーブルについて
- 27、役員賠償責任保険（D & O）の更新について
- 28、平成28年度 南幌町農産物加工センターの決算内容について
- 29、平成29年度 空知管内農業協同組合長会賦課金の支出について
- 30、平成29年度 J A 北海道中央会の一般賦課金の支出について
- 31、平成29年度 J A 北海道中央会の特別賦課金の支出について
- 32、リスク情報について
- 33、要領等の改正について
- 34、6月末 財務状況について

～青年部イベント実施の予告～

◎ J A なんぼろ青年部では、ホクレンくるるの杜で農産物の対面販売を行います！興味のある方はぜひ足を運んでください！

場所：ホクレンくるるの杜（北広島市大曲377-1）

日付：平成29年8月19日（土）

時間：午前11時～午後2時くらいを予定

※商品がなくなり次第終了致します。

内容：南幌の農産物を販売します！

私達の J A

平成29年6月末日現在

組合員	2,825名
(前年同期比)	▲25名
正組合員	478名
(前年同期比)	▲26名
准組合員	2,347名
(前年同期比)	1名
正組合員戸数	303戸
(前年同期比)	▲10戸

編集後記

・7月に入り急に暑くなり毎日こりこりしています。夜寝る時も扇風機を付けながらでないと寝れなくなっていました。

・麦刈りも始まり農作業も一段と忙しくなり始めていますが怪我や病気などには十分注意しましょう。

くみあいだより担当の平井はドローンで空撮を行っています。

